

日本パペットセラピー学会(JPTA)からのお知らせ

* 主な記事 令和元年度研修会報告 学会第14回大会のご案内 その他

2020年3月1日 JPTA事務局 〒158-0083 東京都世田谷区奥沢8-10-7
メールアドレス info@j-pta.net FAX 03-3702-3097

日本パペットセラピー学会では、会員のパペットセラピーに関する活動を促進するために、「地域活動助成制度」を実施しています。今回のニューズレターでは、地域活動助成制度を用いた実践について御紹介させていただきます。様々な地域活動に参加されるとともに、ご自身の活動に地域活動助成制度を活用され、ご活躍いただけたらと思います。

(中下富子)

2019年度の地域活動助成制度の実績(5件) 敬称略

実施日：5月4日(土)

テーマ：池袋いけいけ人形劇まつり in 大塚

主催者：須藤 恵子(東京都)

実施日：5月5日(日)

テーマ：子どもの日のための腹話術
とパペットショー(パペット合唱団)

主催者：矢崎 育子(山梨県)



実施日：12月14日(日)

テーマ：つくってあそぼうソックスパペット

主催者：岡 信行(東京都)



実施日：12月26日(木)

テーマ：クリスマス交流会

主催者：須賀 綾子(群馬県)

実施日：2月9日(日)

テーマ：パペットセラピー研修会 in 埼玉

主催者：上原 美子・中下 富子(埼玉県)

地域活動助成制度とは

地域活動におきましては、パペットセラピーに関する研究会、講習会、講演会、その他理事長が
適当と認めた活動で、営利を目的としないものとしています。

支援金は、団体または個人で、申請するものとされており、単年度に1万円です。

2019年度地域活動助成制度の実績5件のうち、3件の活動の一部をご紹介します。

内容の詳細は、学会機関誌「パペットセラピー第13巻第1号」(4月1日配信)をご参照ください。

♠ こどもの日のための腹話術とパペットショー ♠

日時：平成 31 年 5 月 5 日（日）13：10～14：20

主催者：矢崎 育子

場所：山梨県立図書館多目的ホール

参加費無料

参加者：175 名

目的：今までの「見る・聞く・話す・歌う事を大切にしながら、パペットを活用して子供達の想像力を育み、多年代が一緒に楽しめる場を創る」に、今年は「笑顔と感謝」をプラスして取り組みました。又、保育・教育・リトミック・パペットセラピーの各専門性を関連させ、パペットセラピーの実践的な研修の場となるようにしました。

内容：手遊びリズム遊び、腹話術、プチ人形劇、パペット合唱団、大型絵本「はらぺこあおむし」、ワークショップ「パペットを動かそう」

全体を通しての自己評価と方向性：

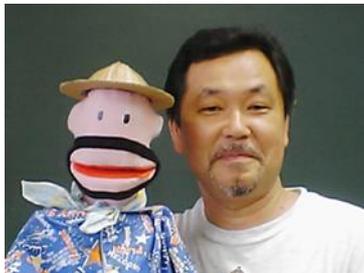
アンケートの結果や反省会で、観客とスタッフから全体的に好評でした。専門性を活かした導入、五感の活用、バラエティーに富んだ内容、テンポが良い構成等の工夫で、乳幼児～大人迄の多年代の沢山の観客に楽しんでもらえました。紙コップパペットを動かすワークショップも好評で、家に持ち帰ってからも遊んで楽しんでいたとの事後報告が沢山ありました。学会の助成で揃いのスカーフや帽子を作れた事も、効果がありました。これは、3 月に依頼された美術館主催のパペットコンサートでも使うことが出来ました。

今年の反省を活かし、来年も子どもの日に、新しい工夫をしながら多年代が笑顔になれる様なパペットショーをしていきたいです。

(矢崎 育子)



◆ つくってあそぼうソックスパペット ◆



日時：令和元年 12 月 14 日（土）

主催者：岡 信行

場所：全国心身障害児福祉財団ビル

内容：ソックスパペット制作、キャラクター設定、動かし方や腹話術の練習、人形劇作り、発表

はじめは、2 人のパペットの掛け合いによる 12 月の歳時記を使って、パペットの動かし方や、話し方、特に目線を意識した動かし方の簡単な腹話術の練習をしました。いよいよ子供たちの前に立ってデビューする時を想定し、設定したキャラクターなどを活かしながら、お一人ずつ、発表していただきました。

ダジャレ、オヤジギャグなども駆使し、楽しく発表しあうことができました。

パペットたちのデビューの日が楽しみです。

ソックスパペットは、どんな生き物でも制作可能です。ちなみに、干支の十二支のうち、まだ作っていないのは辰だけとなりました。

また、このような機会があれば、参加者の希望に応じたソックスパペットを制作し、楽しく活動に取り組んでいきたいと思えます。

(岡 信行)



♥ パペットセラピー交流会 ♥

パペットセラピーの理論とパペットの扱い方

日時：令和2年2月9日（日）10:00～15:00

主催者：上原 美子・中下 富子

場所：埼玉県立大学

会費：会員 1000 円、非会員 2000 円

講師：安藤倫子氏（ステージ・ネーム：アンディ）

内容：講師による腹話術ショー、靴下を用いたパペットの作成、

パペットセラピーにおける腹話術師のテクニック、腹話術基本レッスン、腹話術のサンプル台本を使った練習、参加者による発表



交流会では、現職の養護教諭の方々が多く参加されました。パペットを作成する楽しみや、対話というキーワードでパペットセラピーの効果を実感されていました。また、パペットの技術の向上も望んでおられ、充実したひとときを過ごされたようです。以下は、参加者の方々の感想です。（中下 富子）

パペットセラピーという言葉は初めて耳にしました。心が和むと実感しました。とても楽しかったです。自分の気持ちをパペットに言わせればいいのだなということがわかり、人形を使った表現をこれから上手になれたらいいなと思いました。

一日ご指導ありがとうございました。夢中でパペットを作る時間とても楽しかったです。（準備のお陰です。）実技は「声」「人形操作」「役割分担」を同時進行させるのが難しいですが、皆、最初はそうだとのこと。慣れるまで練習ですね。会場で、赤ちゃんが泣いてしまったとき、アンディ先生がパペットで「泣いてるよ！エーン」と声を発したら、すぐに泣き止みました。パペットセラピーの実力をしっかりとこの目で見せていただきました。

パペットの制作、腹話術の基本を学ぶことができ、まずはとても楽しかったです。安藤先生の実践は、本当にパペットが活着ているようで（人格があり）、引き込まれました。少し技術を向上させ私も実践できたらと思います。子供たちに対して、あるいはお年寄りに対して交流のきっかけにできたらと思います。

一日、楽しく学びました。細かい材料の準備等ありがとうございました。上手にできなくても子供たちが楽しんでくれたら、いいのかなと思いました。

安藤先生の腹話術を見させていただき、いろいろ学ばせていただきました。簡単そうに思えましたが、自分でやってみると難しかったです。老年看護学を担当していますが、高齢者の方を対象としてパペットができるように頑張りたいです。

大変楽しく、アツと言う間に時間が過ぎました。パペットセラピーという言葉は初めて聞きましたが、その特性を生かすことは保健室経営においてとても役立つものでした。また、対話と会話の違いも納得しました。忙しい日々だとつい忘れがちになってしまう対話を大切にして、子ども達にとって話しやすい、来室しやすい保健室の一端を担えるよう、パペットセラピーを生かしていきたいと思いました。



一日ありがとうございました。パペットと聞いて、あやつり方を習うかと思ったら、作り方から教えていただけるということで、それは今後の保健学習活動でも生かせそうだと思いますので、参加させていただきました。作る方は、とても簡単にかわいくできてよかったのですが、いざ使って生き生きと動かすと、はずかしさと難しさがなかなか大変でした。でも段々と声色を変えることに少しずつ慣れ動かすことができると面白さになってきました。脳トレにもなりそうでしたので、これからも練習したいと思います。



今回は、手足を簡単に付けられる作り方を学べて良かったです。やはり手足が付くと、より生き生きと動いているように見えると思いました。アンディ先生のようにマイクなしでもよく通るキャラクターボイスが出せるように練習したいと思います。

今日は、とても楽しみにしていましたが、遠方からのため、遅刻をしてしまい、失礼いたしました。とても楽しく聴講させていただき、遠方から来たかいは充分過ぎるほどありました。仕事が対人援助職なので、コミュニケーションに役立てたいと思いますが、まずは、自分のためにコミュニケーションスキルとして学びたいと思っています。そのために、トレーニングが必要となりますが、自主トレだけでなく、トレーニングやエクササイズのお機会・場があればありがたいです。



セミナーの進め方がよかったですね。暖かい空気をかもし出しながら進めたのが素敵です。少人数の進め方はいろいろな方法があると思います。今回は、そんな点から良かったと思います。他にも初めからV字になって、皆から対面できる形で進めるとお互いの顔が見られて、アイスブレイクが短時間でできるかなと思います。

日本パペットセラピー学会 第14回大会のご案内

大会長：千葉 俊一（JPTA 理事・歯科医）

副大会長：東 義也（JPTA 理事・尚絅学院大学教授）

テーマ：「パペットセラピーの実践を通して得たもの。学んだこと」

日時：2020年（令和2年）10月4日（日）

会場：全国心身障害児福祉財団ビル（東京都豊島区）

セラピーとしてのパペットの活用で素晴らしい結果を得た方も多し中、思うような結果が出ない、継続的に活用するの必要を感じながらもなかなか続かないなど、種々問題意識をお持ちの方もいらっしゃるかと思います。それぞれの思いを持ちながらもそれでも前進し続けている方が多いかと思ひます。

今回は、14年間続いた日本パペットセラピー学会の会員相互の理解を深めるとともに、パペットセラピーを通しての社会活動の在り方を考え、さらなる学会の発展につながればと思ひます。（千葉 俊一）

「事務局だより」

学会では、パペットセラピストの養成に力を入れています。研修会・ワークショップ等を今後も次々に行いますので、是非ご参加ください。ホームページお知らせ欄をチェックしてください。

パペットセラピストの申請要件は、ホームページのパペットセラピストの項目に掲載してありますので、学会在籍5年以上の方は積極的に申請をお願いします。また、申請用研究論文の書き方については、事務局にご連絡いただければ、随時ご相談に応じます。なお、申請の締め切りは、毎年5月末となっています。期限までに必要書類を添付して事務局にお届けください。

パペットセラピストが備えるべき技能には①腹話術の技術に優れていること②パペットセラピーの理論を説明できることに加えて、③パペット制作ができること、があります。③は、クライアントとともにパペット制作を行うその過程にもセラピー効果があると思ひているからです。